



起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード(GIA)2024」(上毛新聞社主催、田中仁財団共催)は14日、ファイナルステージに13組が出場した。ラッパーのNAIKA MC(ナイカ エムシー)さん、クリエイターのSHADE(シェイド)さんとMako(マコ)さんが、それぞれ熱のこもったパフォーマンスを披露。若手起業家4人によるトークセッションでは、好きなことを突き詰める行動力などについて議論を深めた。



オープニングでステージに勢ぞろいしたファイナリストたち

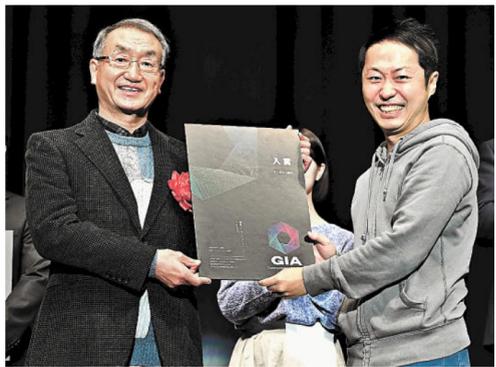
課題に独自の解決策

ベンチャー部門入賞

ミュー社長
村田 悠典さん

生成人工知能(AI)を駆使して医学論文の要約動画を作成し、配信するプラットフォームを開発した。20、30代の若手医師をメインターゲットに、医療の学習が効率的にできるようなサポートができるようサポートしている。論文は年間約168万本発行されるが、実際に医師が読めるのは年平均36本ほどという。AIが論文を読み込み、2、3分で

論文要約し動画配信



県商工会議所連合会の金子昌彦会長(左)から表彰を受ける村田さん

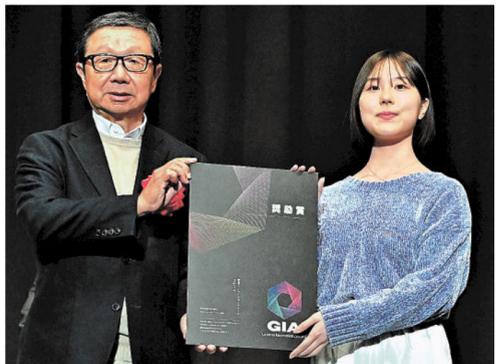
奨励賞

共愛学園前橋国際大3年
春山 奈緒さん

子ども感情色で表示

児童生徒の精神状態に合った指導をできるように手助けするインソール(靴の中敷き)とアプリを考案した。アプリでは感情を分析する人工知能(AI)を

子ども感情色で表示



群馬経済同友会の坂本正堂代表幹事(左)から表彰を受ける春山さん

スタジオ6.11代表社員・映画監督・脚本家

飯塚 花笑さん

大賞

前橋市を拠点に、世界を視野に入れた映画の製作や、俳優のレッスンに取り組む。プロフェッショナルな制作体制を構築し、地域に大きな経済効果をもたらす映画のロケを本県に誘致するため、撮影チームに対して情報をワンストップで提供する事業を紹介した。大賞に選ばれ、「群馬で映画なんて」と言われることもあった。映画が実際に地域を活性化させていることが認められたと喜ぶ。

ロケ地情報提供し支援

大賞

非口骨をつくる映画への実感をもちたいという。この日は映画「ロッキー」の主人公に扮し、顔に傷などの特殊メイクを施して臨んだ。「群馬県を映画の聖地へ」。力強く述べ、高らかに拳を突き上げた。

群馬県内でキャスティングを行ってもらう撮影チームにとってもコスト削減に

映画撮影チームへのワンストップ支援

人材やロケ先の紹介 井手手配 宿の手配など 地域で連携



映画撮影の誘致による経済効果と、群馬発の世界で戦える俳優と映画づくりプロジェクトを提案し、大賞に輝いた飯塚さん

ビジネスプラン部門入賞

慶応大3年 **渡辺 光祐さん**

大学生・専門
学校生の部



県中小企業団体中央会の吉田勝彦会長(左)から表彰を受ける渡辺さん

職業限定でポイント

人材の定着を狙う自治体や企業が関わり、通常のポイントカードよりも高い還元率を設定。地元での消費が増え、地域活性化にもつながるメリットがある。

前橋商業高3年
江戸 美月さん

高校生以下の部

コロナ禍が一段落し、国内ではインバウンド(訪日客)需要の取り込みが活発化する中、「トラベル」と「マッチング」を掛け合わせた多言語対応プラットフォーム「トラッチング」を考案した。家族で国内旅行した際、現地の人に親切にしてみようという経験から「外国人にも同じことができた」と考えたのが

旅行者とガイド結ぶ



高橋正也県教育委員会教育次長(左)から表彰を受ける江戸さん

きっかけだ。旅行会社では提供できないニッチなローカル体験を望むインバウンドに照準を合わせた。自治体がトップペーパーを作成し、事業者やガイドと呼ばれる地域住民が登録。旅行者はプロフィールから申請すればマッチング成立となる仕組みだ。高校卒業後は大学に進学する。「大学でも今回のプランを磨き上げて、起業したい」と目標を掲げる。

デジタル
スイッチ社長 **田中 秀彰さん**



小川前橋市長(左)から表彰を受ける田中さん

一般の部

DXの効率化と育成

「システム導入で後悔する会社をゼロに」。企業に実践型デジタルトランスフォーメーション(DX)研修を提供し、業務効率化とIT人材の育成を同時に支援するプランを提案した。

群馬経済同友会の坂本正堂代表幹事(左)から表彰を受ける春山さん

新たなビジョン提案

若手起業家トークセッション

原体験語り挑戦者激励 起業への考え方 熱く



concon CEO
高橋 史好さん



Dazy社長
林 龍男さん



AY社長
村上 采さん



NowNever.代表社員
アジズ・アフメッドさん

本県ゆかりの若手起業家によるトークセッションでは、県内外で活躍する4人が事業内容や起業したきっかけを紹介。好きなことを突き詰める大切さや、起業や新たなビジネスに挑戦する人たちの背中を押しした。

インバウンド(訪日客)向けにできる販売などを手がける高橋史好さん(高橋市出身、伊勢崎市長の娘)は、織物「伊勢崎銘仙」をアップサイクルするアプリ「SRR」を開発した。スマートフォンで表情を読み取ることで、心拍数や呼吸数を検知。ストレスや怒りなど予兆があった際に音声で注意を促すほか、事前に登録した連絡先へ通報する機能も搭載した。

高橋さんは高校時代にインドへ留学し、不動産開発でまちを発展させるホストファザーの仕事ぶりを見て起業家を志すようになったと振り返った。大学在学中に起業しインド向け配信メディアを手がけ、その売却資金でテクノロジーで販売したるが注目を浴びた。既存のだから脱却した製品を海外向けに売り込み、将来的にパナコレを

目指す夢を語った。村上さんも大学時代にアフリカのコンゴ民主共和国に渡り、不安定な社会で力強く生活する現地の人と交流したことが起業の原体験。アパレル事業で同国との橋渡しをしたという行動を起し、慣れ親しんだ伊勢崎銘仙でのビジネス構想が後から追いついたと説明した。

日本語が分からない中で映像で人に思いを伝える経験が現在の糧になっていると、さまざまな商品を見て魅力を引き出すのが得意で、伝える役目やりがいを感じているとした。

ハードルが高いイメージの起業への考え方も共有した。高橋さんは、今は学生でもリスクなく始められる事業があると説明。大学時代に仲間と編集に10時間かかる動画を2年間で2000本制作した経験を例に挙げ、「才能は必要なく、泥くさく続けられるかが大切」と強調した。林さんは「好きなことで起業して毎日文化祭のよう楽しい」と語る一方、苦しくて従業員を背負う以上やるしかない腹を決める覚悟はあると語った。



ファイナリストプレゼン

桐生高3年

根子 優太さん



身近に潜む食物アレルギーのリスクに着目。確認が困難な視覚障害者向けに、原材料表示や独自のQRコードをカメラで読み取り、音声でアレルギー情報を知らせる装置を開発した。

より多くの人が利用できるよう、実際の装置とアプリの二つでサービスを提供。障害の程度によって使い分けできるように工夫した。「技術だけでなく、ビジネスにつなげる視点も大切。事業化に向け、今後も挑戦を続けたい」と意気込んだ。

佐野 結愛さん、天田ヒカリさん



人身事故削減を目指し、危険運転を防止するアプリ「SRR」を考案した。スマートフォンのカメラで表情を読み取ることで、心拍数や呼吸数を検知。ストレスや怒りなど予兆があった際に音声で注意を促すほか、事前に登録した連絡先へ通報する機能も搭載した。



スマホ1台で利用できる手軽さを生かし、タクシーや運送事業者向けに従量課金制での実装を展望。2人は「SRRの商品化を実現し、世界に広げていきたい」と力を込めた。

ぐんま国際アカデミー中等部2年

浜島 陽奈さん



けがで車いすを使用することになった友人を補助した経験から、障害の有無にかかわらず、誰もが快適に利用できる公園の整備プランを発表した。

整備対象に館林市の城沼総合運動場を選定。プランでは、車いすのまま乗れるブランコや段差のないトランポリンといったインクルーシブ遊具の設置、風鈴や花など五感で楽しめる環境整備の推進を掲げた。「みんなが平等に過ごせるようになってほしい」と共生社会の実現を願った。

群馬大5年

宮川 拓也さん



人工知能(AI)問診システムと五感のデジタル化を融合し、あらゆる場所での病院診療を実現する「未来の医療」を展望した。

「病院が苦手」という患者の声を聞いたことが発案のきっかけ。視覚と聴覚による情報に偏っている現在のオンライン診療を発展させた。AI問診と組み合わせることで、自宅にしながら対面と遜色ない医療につなげる。

「ここ群馬から発信し、世界の医療に強烈な空気を吹かせたい」と強調した。

にしざわ接骨医院院長

西沢 洋介さん



「移動できることは人間の本質的な幸せ」。神経を鍛える健康事業を発表した。自身がプロ野球選手時に経験した痛みなどを解消する役目を担おうと、接骨院を開業し、三つの神経に着目した。

感覚神経には特殊なタッチで神経の滞りを改善する施術を実施。運動神経には高齢者の機能回復などを図る療法、自律神経には副交感神経節を刺激する療法を施す。「仲間を増やしながらメソッドを日本中に広めていきたい」と語った。

F M桐生事業本部長

小保方貴之さん



「地域リスナーと企業がつながる新しい広告市場をつくる」。ユーザーが作成したラジオのプレイリストに合った広告を出稿できるアプリ「shelfs(シェルフス)」の魅力を伝えた。

利用者は各地のラジオ局から番組を選んでプレイリストを作成。ターゲットを個人からプレイリストに変えることで、文脈に合った広告を提供できる。「利用者のストレスを軽減できる。企業も広告をリーズナブルな価格で出せる新しい選択肢だ」と熱を込める。

Splash Brothers取締役

岡村 昌輝さん



3台同時に短時間で洗車できるトンネル洗車機を使ったサブスクリプション(定額利用)の洗車サービスを展開する。本県と栃木県に4店舗を構え、1店舗当たりの会員は約2000人に上る。2027年までに本県近郊で20店舗を出店する構想を示した。

「イノベーションは未来の当たり前をつくること」と述べ、「群馬で根付き始めた、いつでも、どこでも、気軽にできる洗車を日本の当たり前にしていく」と展望した。

起業家発掘プロジェクト「群馬イノベーションアワード2024」に協賛しています。

アイオー信用金庫	北群馬信用金庫	桐生信用金庫	群馬県信用保証協会	しののめ信用金庫
大和証券 Daiwa Securities	高崎信用金庫	東京海上日動 TORI-MARINE NICHIDO	TOWA 東和銀行 ふれあいバンク	JFC 日本政策金融公庫
野村証券	MIZUHO みずほ銀行	MIZUHO みずほ証券	SMBC 三井住友銀行	三菱UFJモルガン・スタンレー証券
JT 感動のそばに、いつも。	JAOS Experience a New Adventure.	Sowa DELIGHT	株式会社ダイコー	TAIYO YUDEN
高崎健康福祉大学	高崎 佐藤眼科 TAKASAKI SATO EYE CLINIC	税理士法人 田子会計事務所	CHUO 中央カレッジグループ	永井酒造株式会社
株式会社西建 NISHIKEN 会社	CELEBRATE LIFE HANASUKE	PIZZERIA PESGA!	BMZ	広田住宅センター
富士スバル	Primavera 株式会社プリマベラ イキイキワクワク笑顔の成長	区分所有オフィスのボルテックス Vortex	前橋園芸株式会社	MSD BRICK 増田煉瓦株式会社
マルエドラッグ	宮下工業株式会社	メトロ	ヤマト	YUNA CHUBOU ユナ厨房

